

# 第2回脱炭素化社会への貢献のあり方検討小委員会

## 横須賀市の取り組み

▶ 令和3年10月27日（水）

# 目次

- ▶ 1 脱炭素に向けた横須賀市としての取り組み
- ▶ 2 下水道事業者としての具体的な取り組み  
(焼却炉更新工事)
- ▶ 3 脱炭素に向けた課題
- ▶ 4 地方公共団体への支援について

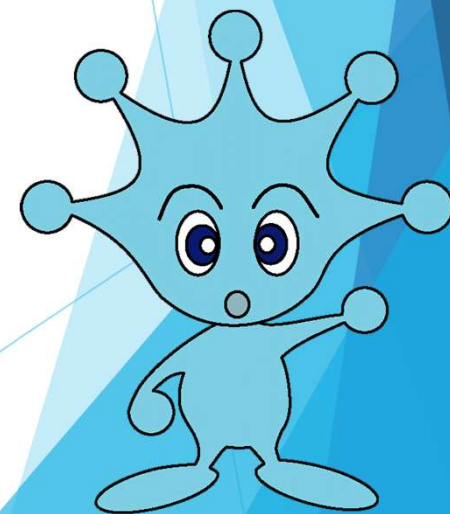
# 1 脱炭素に向けた横須賀市としての取り組み

## ▶ ゼロカーボンシティ宣言

脱炭素社会への移行に向けた取り組みを進めていく姿勢を表明するため、「横須賀市ゼロカーボンシティ」を宣言しました。（令和3年1月29日）

## ▶ ゼロカーボン推進条例の制定

温室効果ガスの排出量の削減等及び気候変動適応策を推進していくために「地球を守れ 横須賀ゼロカーボン推進条例」を制定しました。（令和3年9月21日）

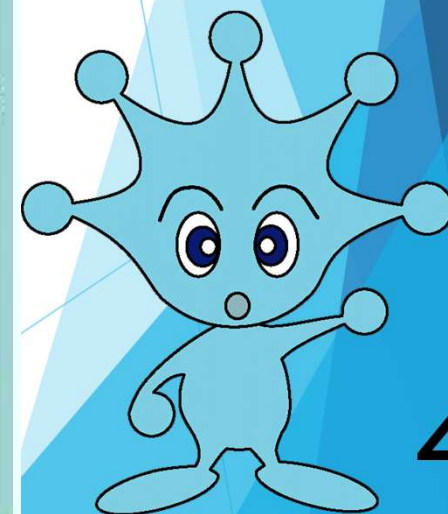
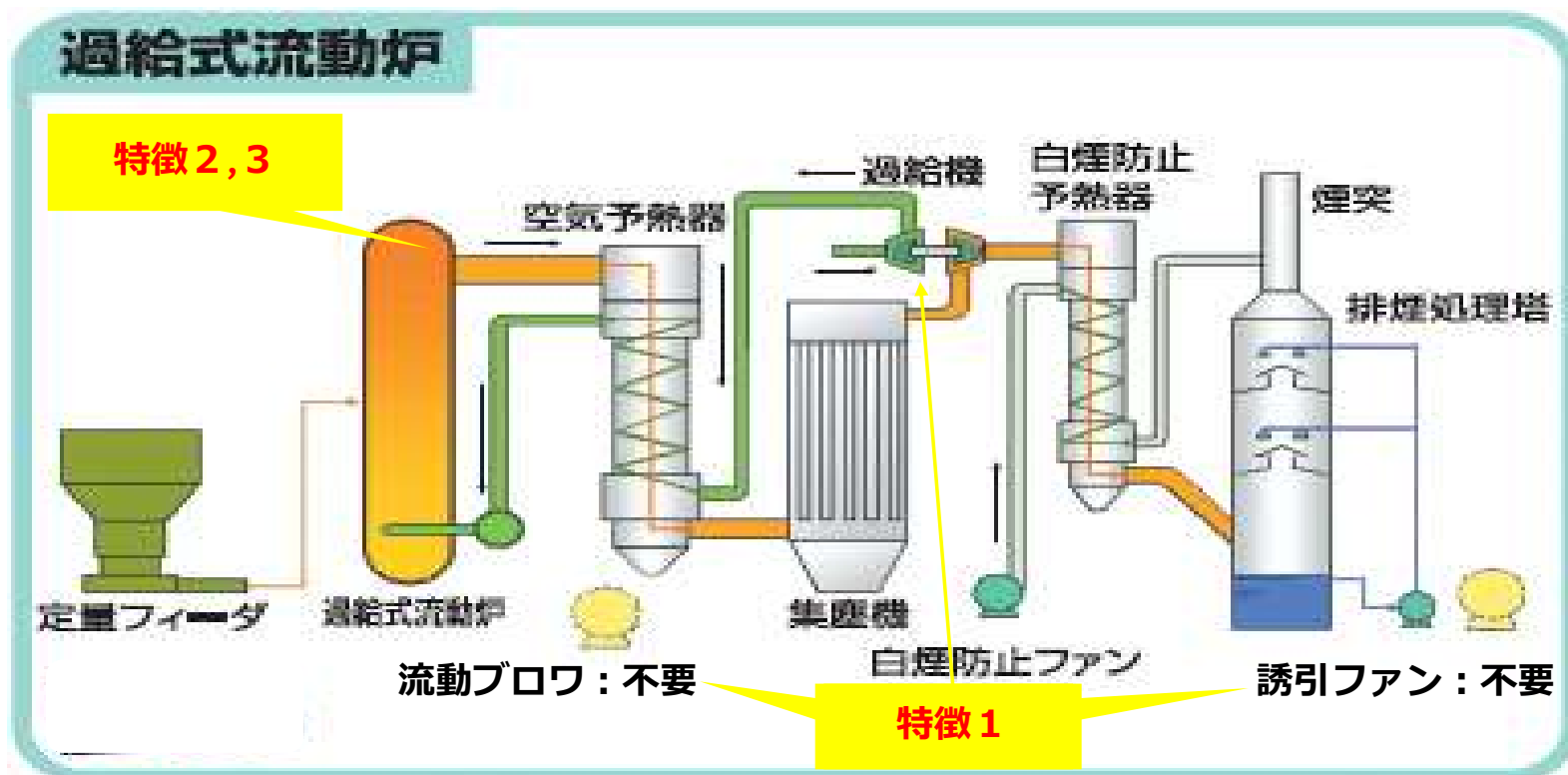


## 2 下水道事業者としての具体的な取り組み (焼却炉更新工事)

### 設備概要

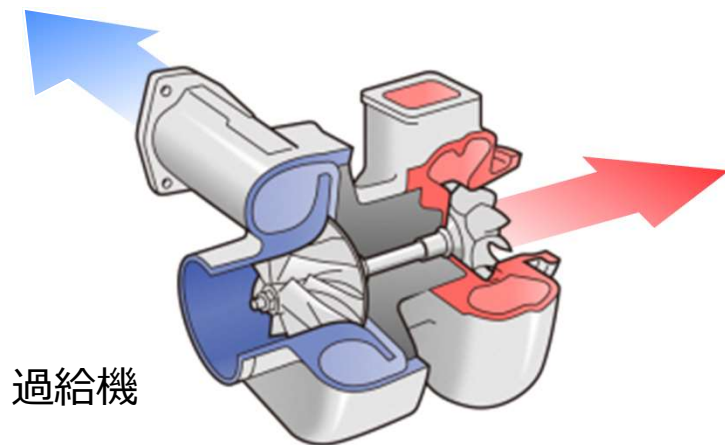
処理能力 : 60t/日×2炉  
焼却対象 : 高分子脱水汚泥

事業期間 : H30~R4  
事業費 : 約67億円



## 特徴1 消費電力の大幅な削減

消費電力を約40%削減



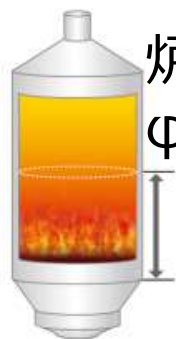
○ 燃焼排ガスの圧力で過給機を駆動し、  
圧縮空気を炉に供給。

→ **流動ブロウ不要**

○ 圧力下の燃焼

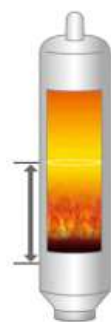
→ **誘引ファン不要**

## 特徴2 燃料使用量の削減



炉内径  
 $\phi 3,800\text{mm}$

従来炉

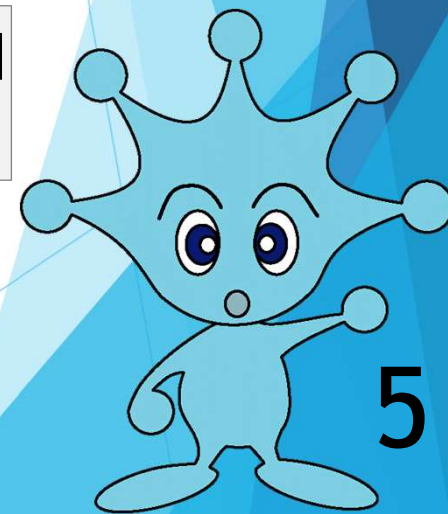


炉内径  
 $\phi 2,500\text{mm}$

過給式流動炉

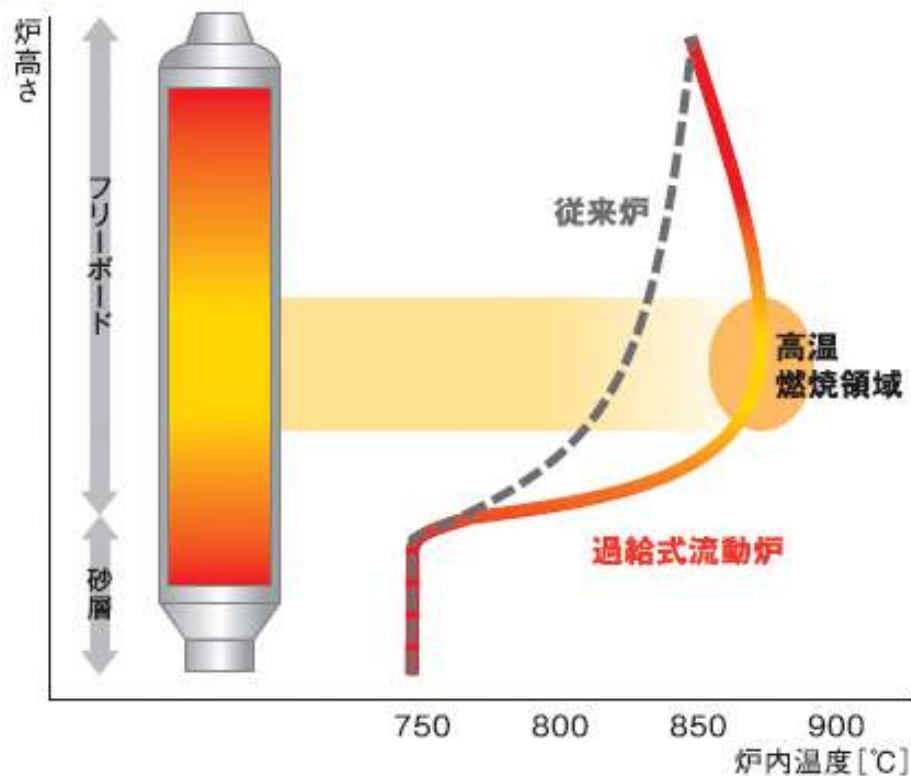
排ガス圧縮により炉内径が細く  
容積が小さくなる

放熱量が低減



### 特徴3 N<sub>2</sub>O排出量の削減

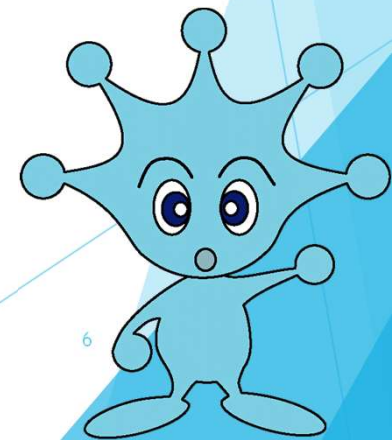
過給式流動炉と従来炉の炉内温度分布比較



圧力下での燃焼による高温域の形成で燃焼温度に大きく依存するN<sub>2</sub>O排出量を大幅削減することが可能！

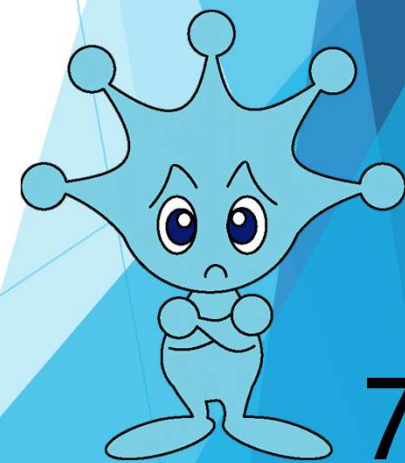
従来の気泡流動炉に比べて

**N<sub>2</sub>Oの排出量が約 50% 削減**



### 3 脱炭素に向けた課題

- ▶ ゼロカーボンに向けた具体的な対応
  - ・本市では、現在高効率設備への更新による省エネまで。今後ゼロカーボンに向けた創エネ等への発展が必要
  - ・創エネ、省エネ、非化石電気・排出権購入の最適な組み合わせの想定が難しい
- ▶ 脱炭素に係る費用負担
  - ・創エネ設備費用の負担
  - ・排出権、非化石電気使用料金の負担





## 4 地方公共団体への支援について

### ▶ 補助制度等の拡充

- ・ 創エネ事業に関わる交付金の重点配分
- ・ 補助率の拡大

### ▶ 技術的支援範囲の拡充

- ・ 排出権、非化石電気などの導入に向けた情報の提供

